



謹賀新年

テルヤ寛徳後援会
会長 山内 徳信

明けましておめでとうございませす。新春にあたり、テルヤ寛徳後援会会長として一言ご挨拶を申し上げます。

照屋寛徳衆議院議員は、一年三六五日、沖縄県民のために東奔西走、頑張っております。これもひとえに皆様方のご支持・ご声援の賜物であります。心から感謝を申し上げます。

さて、毎日の新聞やテレビを見ておりますと「怒り心頭」、血圧は上がりませんか。

小さな「沖縄ンチュアンシンバカニスンナ、ウビトキヨ」。唐や差し傘、大和や馬ぬ蹄、沖縄や針ぬ先、ヤシガ 針や取ッテ飲マラン。「クッターンカイ フリムンヌアチ ケーサーッテイナイビラン、イジイー ビラナ」

私が、参議院における最後の委員会質問で「日本のヒットラー」と言われぬような政治をしてほしい、と指摘したところ、安倍晋三首相は血相を変えて怒っておりました。その予想が今、現実になろうとしております。

安倍政権は平和憲法を破壊し、戦争国家へと歩み始めました。南スーダンに自衛隊を送り、「駆け付け警護」として武器使用を初めて容認しました。

沖縄にあつては辺野古、高江における県民無視の基地建設、それに反対し、抵抗を続ける平和希求の民衆への弾圧と不当逮捕、長期勾留等、これは大和政府による沖縄差別であり、抑圧以外の何ものでもありません。

私たちは、このような強権政治、弾圧政治、警察国家の横暴を許してはなりません。戦争国家へと暴走を始めた今の政治の流れを止めねば、日本は大変なことになります。

衆議院の解散総選挙の噂も聞かえてくる情勢です。テルヤ寛徳後援会一丸となって万全な備えを期し、気を引き締めて頑張つてまいりましょう。平和創造への志を共にする仲間の皆さん、今こそ立ち上がりましょう。

結びに、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



新年のご挨拶

参議院議員 伊波 洋一

テルヤ寛徳後援会の皆様、新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。ありがとうございました。

昨年7月10日に行われた参議院選挙ではテルヤ寛徳先生をはじめ、後援会の皆様や多くの県民からご支援をいただき現職大臣を相手に10万6千票余りの差で初当選させていただきました。心より感謝申し上げます。参議院議員としての任期は昨年7月26日から始まり、向こう6年間、沖縄の課題を国会の場で取り組めることを大変ありがたく思っております。

今年、辺野古と高江の闘いが正念場を迎えます。昨年12月13日には懸念されてきたオスプレイの墜落事故が発生しました。県民が建白書の精神に基づき求めてきたオスプレイ配備撤回の要求を無視した中で、政府の責任は極めて重大です。しかし、政府は「危険性



を除去するためにも、辺野古新基地建設を進めていく」との姿勢です。県民の民意に寄り添う態度はまったく見えません。私はこのような政府の姿勢を許さず、沖縄県民の想いを国政の場へ反映するために力をつくしてまいります。

また、今年、衆議院総選挙が迫っているとの報道もあり、その際にはテルヤ寛徳先生の必勝に向けて、皆様とともに頑張る決意です。翁長知事を支え「オール沖縄」で一致団結して、頑張りましょう。

最後になりますが、テルヤ寛徳先生をはじめ後援会の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます、新年のあいさつといたします。

糾弾! 普天間基地所属 オスプレイ墜落事故

沖縄へのオスプレイ強行配備以来、恐れていた事態が遂に現実となった。名護市安部沖合の浅瀬のリーフで、夜間訓練中とみられる米軍普天間基地所属のオスプレイが墜落したのだ。

機体は横倒しになって大破し、胴体やプロペラが真っ二つに折れていた。破損状況からして「不時着水」の表現は当てはまらない。紛れもなく「墜落」事故だ。

折しも、北部訓練場やキャンプ・ハンセンに隣接する民間地上空で、普天間基地所属のオスプレイ等による物資吊り下げ訓練が昼夜を問わず行われ、近隣住民の不安が募る中で墜落事故である。

多くの県民の反対の声を無視して強行建設した東村高江の米軍ヘリパッドの運用が始まれば、危険度が加速度的に増すのは明らかだ。県内を縦横無尽、好き勝手に飛び回る欠陥機をそのまま野放しにすれば、市街地や学校など民間地への墜落は時間の問題だ。

しかも、墜落現場は辺野古のすぐそば、目と鼻の先だ。今回の事故で、辺野古新基地建設では普天間基地の危険性は除去できず、単なる「危険のたらい回し」にしかならないことが露呈した。



沖縄選出国会議員で防衛政務官に申し入れ=14日午後7時すぎ、国会内

墜落翌日、怒りと恐怖に震えながら稲田防衛大臣宛の抗議文書を持ち、県選出野党国会議員「うりずんの会」で(1)普天間基地所属のMV22オスプレイ24機全てを即時運用停止の上、撤去すること(2)米軍北部訓練場におけるヘリパッド建設を即刻中止し、米側への提供を撤回すること(3)米空軍CV22オスプレイの日本配備及び沖縄県内への訓練飛来を認めないこと(4)陸上自衛隊におけるV22オスプレイ導入計画を即時断念することの4点を小林政務官に申し入れた。

さらなる大惨事を防ぎ、県民の命と暮らしを守るためにも、やはりオスプレイ配備撤回、辺野古新基地建設阻止しかない。(塚田秘書記)

欠陥機オスプレイの 飛行再開に抗議する

欠陥機オスプレイの墜落事故からわずか6日後の12月19日、在沖米軍は、多くの県民の強い抗議を無視するかのよう飛行を再開した。

12月13日の墜落は、オスプレイの構造的欠陥が原因だ、と専門家は指摘している。その墜落原因も究明されず、多くの県民が抱えている墜落の恐怖を解消されない中、軍事優先の発想による飛行再開は断じて許されない。

オスプレイの強行配備、普天間基地への24機の常駐、やりたい放題の夜間訓練や物資吊り下げ訓練、重低音の爆音禍など県民の暮らしと命の安全を破壊するオスプレイは一刻も早い撤去を求め。

今回のオスプレイ墜落事故で改めて露呈した安倍政権の対米従属ぶりには、強い怒りと失望を覚える。海上保安庁や県警の捜査権は日米地位協定の壁によって否定され、墜落現場の保全もできない。墜落を「不時着水」と言い張り、米軍に抗議の意思表示すらできず、飛行再開にも唯々諾々と従うだけだ。

独立国家、主権国家の矜持は微塵



緊急集会で連帯挨拶=2016年12月17日、キャンプ・シュワブゲート前